

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

■AI パネル②④

井上 (42) / 建設設計士

- 属性：埼玉県川越市。専門・技術職。既婚。
- 美容タイプ：美容液初心者
- 購入チャネル：専門店
- 購入の動機：徹夜が続いた際の「疲れ顔」に絶望した。反町さんのCMを見て、自分もまだ諦めたくないと思い、誕生日プレゼントとしてセルフ購入。
- 現状：初めての美容液だが、これ一本で肌の「疲れ」がリセットされる感覚に驚いている。黒いボトルの質感が、ストイックな自分の仕事場にも馴染んで満足。

<結果サマリー>

「年齢を力に」という反町隆史CMに再起の希望を見た42歳設計士が、疲弊した顔を立て直す「装備」として購入

1. **美容についてのこだわり** 45分間の模擬インタビュー、お疲れ様でした。井上様との対話から得られた、高額美容液「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」の購入背景と心理的価値を【Tri Insight インサイト・サマリー】としてまとめます。

1. **美容についてのこだわり** 対象者は建設設計士として、20年近く「寝る間を惜しんで図面と向き合う」生活を送り、身だしなみは清潔感の維持に留めていた。しかし、連日の徹夜明けに鏡で見た自分の顔に「絶望に近いもの」を感じ、老化への危機感と寂しさを抱いたことが転換点となった。単なる若返りではなく、仕事の現場で「今日も戦えるな」と思える活力の回復を求めて、長年放置してきた肌と向き合い始めている。

2. **普段のスキンケアと目指す肌** 基本は無印良品の低価格な化粧水等を使用し、美容液だけを高級品に差し替える「一点豪華主義」のスタイルである。目指すのは「疲労を感じさせない、凛とした顔」であり、肌の状態が自分の意思の強さやプロとしての信頼感に直結すると考えている。対象者にとって、肌のハリは「自分の思考まで沈まないため」の防波堤であり、施主に対峙する際のエネルギー源としての機能を期待している。

3. **現使用美容液購入経緯** 反町隆史氏のCMで「年齢を、力に変えよう」という言葉に触れ、今の自分を「恥じるような、でも希望をもらうような」複雑な感情を抱いたことが購入の契機となった。百貨店の専門店を一人で訪れる勇気を出したのは、1万円を超える価格を「今の疲れ顔をなんとかするための賭け」と捉えたためである。あえて50mLサイズを選んだのは、中途半端な妥協を排し、本気で自分を変えるための「覚悟の代金」という側面が強い。

4. **現使用美容液使用実態と評価** 使用感については、睡眠不足でも肌に「踏ん張り」が効く感覚に絶大な信頼を寄せており、5段階評価で満点の「5」をつけた。指の腹で顔を引き上げる行為を「自分を取り戻すための儀式」と定義し、深いネイビーの重厚なボトルを仕事道具と同等の「信頼できる装備」として愛着を感じている。高い満足度の背景には、単なる保湿を超えて、鏡を見るたびに「今日も大丈夫だ」と自己肯定できる精神的安定感がある。

5. **現使用美容液 今後の使用意向** 今後も継続意向は極めて高く、この美容液を「明日も現場で戦うための燃料」と位置づけている。唯一の懸念は「中身の見えなさ」であり、仕事同様に段取りを重視する性格か

ら、急に効果の源泉を失うことに不安を感じている。他のブランドへの興味は皆無であり、ようやく見つけた「正解」を維持し、50代に向けて「良い枯れ方」をすることへの期待が、再購入への強い動機となっている。

1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：今日はよろしくお願ひいたします。まずはお名前と、今どちらにお住まいで、どのようなお仕事をされているか、簡単に伺えますか？

対象者：井上です。42歳になります。今は埼玉の川越に住んでいて、妻と二人暮らしです。仕事は建設の設計士をしています。

インタビュアー：設計のお仕事なんですね。井上さんは、普段の生活の中で「美容」や「身だしなみ」に関して、何かご自身でこだわっていることや、気をつけていることはありますか？スキンケアに限らず、何でも結構です。

対象者：こだわり……。正直、これまではあまり無頓着な方だったんです。ただ、仕事柄、図面を引くのに根を詰めたり、現場に出たりすることも多いので、清潔感だけは損なわないように、髪を整えるとか、体臭に気をつけるとか、その程度は意識していましたね。でも、最近はちょっと意識が変わってきたというか。

インタビュアー：意識が変わってきた。と言うと、具体的にどのような変化があったんでしょうか。

対象者：なんて言うか、自分の「顔」そのものに、仕事の疲れが隠せなくなってきたな、と感じるようになったんです。設計士って、一度プロジェクトが佳境に入ると、本当に寝る間も惜しんで図面と向き合うんですよ。そういう生活を20年近く続けてきて、ふと鏡を見たときに、なんだか「ああ、自分もくたびれたな」と。今まではそれも「働いている男の勲章」くらいに思っていたんですが、少し抗いたくなってきたというか。

インタビュアー：ご自身の顔を見て「抗いたくなかった」。その時は、どんなお気持ちだったんですか？

対象者：……。絶望に近いものがありましたね。特に、連日の徹夜明けに洗面所の鏡を見たとき、そこに映っているのが、自分が思っている自分より、ずっと老け込んだ、疲れた顔をしていました。肌力がなくて、どんよりして、「このまま枯れていくのかな」と思ったら、急に危機感というか、寂しさみたいなものが込み上げてきて。それが、肌についてちゃんと向き合おうと思った、一番のきっかけかもしれません。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：

現在はどのようなスキンケアをされているのか詳しく伺いたいのですが、まず朝、洗顔をした後に肌につけているものと、そのブランド名を教えてくださいませんか？

対象者：朝は……。そんなに凝ったことはしてなくて。洗顔の後は、無印良品の「導入化粧液」をパッとつけて、その後に同じ無印の「高保湿化粧水」ですね。で、その後に今回の「SHISEIDO MEN」の美容液をつけて終わりです。

インタビュアー：無印良品のあとに、SHISEIDO MENの美容液ですね。では、夜はどうでしょうか？クレンジングや洗顔の後に、肌につけるステップとブランド名を教えてください。

対象者：夜も基本は朝と同じですね。無印の化粧水までやってから、SHISEIDO MEN。ただ、本当に疲れがひどい時や、余裕がある時は、妻が使っている「メディヒール」のシートマスクを勝手に借りて貼ることもあります。それくらいですかね、スペシャルケアと言えるのは。

インタビュアー：奥様のシートマスクを借りることもあるんですね。先ほど「危機感」という言葉もありましたが、井上さんはこうした日々のスキンケアを通して、最終的にどのような肌状態を目指したい、あるいはどうありたいと思われているのでしょうか？

対象者：……。 「若返りたい」とか、そういう大それたことじゃないんです。ただ、鏡を見た時に「あ、今日も戦えるな」と思えるような、シャキッとした肌というか。設計の仕事って、やっぱり緻密さが求められるし、こちらが疲れた顔をしていると、施主さんにも不安を与えてしまう気がして。

インタビュアー：施主さんに不安を与えてしまう、ですか。

対象者：ええ。なんて言うか、肌に「張り」があるだけで、自分の意思がちゃんと外に向いている感じがするんです。疲れ切って、肌がどんより沈んでいると、自分の思考まで沈んでいくような気がして。だから、目指しているのは「疲労を感じさせない、凛とした顔」ですかね。40代なりの、清潔感とエネルギーが同居しているような肌になれば、一番いいなと思っています。

3. 現使用美容液購入経緯

インタビュアー：今回、この「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」を手にとった一番のきっかけは、どのようなことだったのでしょうか。

対象者：……正直に言えば、広告です。テレビCMで見かけたのが最初だったと思います。反町隆史さんが出ていたやつ。あれを見た時に、今の自分の状況と重なるというか、すごく刺さるものがあった。

インタビュアー：今の状況と重なる。具体的に、どのあたりにそう感じたのですか。

対象者：さっきも言った通り、徹夜明けの自分の顔に絶望していた時期だったんです。CMの中で反町さんが「年齢を、力に変えよう」みたいなことを言っていましたよね。あの方は自分より少し年上ですけど、すごく精悍で、エネルギーがあるじゃないですか。それを見た時に、「自分はまだ42歳なのに、何を勝手に終わったような顔をしてるんだ」って、自分を恥じるような、でも少し希望をもらうような、複雑な気持ちになったんです。

インタビュアー：自分を恥じるような、でも希望をもらうような。

対象者：そうです。それまでは「高い化粧品なんて、自分とは無縁の世界だ」と思っていました。でも、あのCMのネイビーのボトルの質感が、なんだか自分の仕事道具というか……製図ペンとか、使い込んだ定規みたいな、硬派な道具のように見えたんです。キラキラした「美容」というよりは、戦うための「装備」を整えるような。それで、少し調べてみようかなと。

インタビュアー：調べてみようと思った時、どのような情報を参考にされたのでしょうか。

対象者：スマホで公式サイトを見たり、口コミを少し読みました。でも、ネットの情報だけじゃ決めきれなくて。結局、デパートの中にある化粧品の専門店に行きました。自分みたいな男が一人で行くのはかなり勇気がいりましたが、誕生日前だったこともあって、「自分への投資」だと言い聞かせて。

インタビュアー：実際にお店に行ってみて、いかがでしたか。

対象者：店員さんに今の悩みを話して、実際にテスターで手に塗らせてもらったんです。そうしたら、香りがすごく良くて。なんて言うか、落ち着くけれど、背筋が伸びるような……。それに、1万円以上するっていう価格を聞いた時、逆に「これだけ出すんだから、今のこの疲れ顔をなんとかしてくれるに違いない」という、一種の賭けみたいな気持ちで、そのまま買いました。

インタビュアー：以前から美容液というものは使われていたのですか。

対象者：いえ、全く。美容液なんて、それこそ奥さんが使うものだと思っていました。洗顔して、化粧水をバシャバシャつければ十分だと。でも、化粧水だけではもう、この「削り取られたような疲れ」はどうにもならない、という限界を感じていたんだと思います。だから、ステップを増やす面倒くささよりも、「何かに頼りたい」という切実さの方が勝ったんですよね。

インタビュアー：9,900円の小さい方のサイズ（30mL）から始めようとは考えませんでしたか？

対象者：……正直、一瞬頭をよぎりました。3,000円以上安いですし、失敗してもダメージが少ないかなって。でも、結局大きい方（50mL）を選んだんです。

インタビュアー：迷いながらも、大きい方を選ばれた。決め手は何だったのでしょうか。

対象者：さっき話した「賭け」に近いんですけど……。ちびちび使って効果があるかないか不安になるより、しっかり一ヶ月以上、腰を据えて向き合ってみたかったです。それに、店頭で実物を見たときに、50mLのボトルの方が重さもあって、僕のデスクに置いてあっても「道具」としてじっくりくる感じがしたんですよね。

インタビュアー：ボトルの重さや、デスクに置いた時の「道具」としての感覚。

対象者：はい。設計士の性分かもしれないんですが、中途半端なスペックのものを持つより、一番標準的で信頼できるサイズを手に取りたかった。店員さんも「しっかり効果を感じるならこちら」と背中を押してくれましたし。1万5千円弱という金額は、僕にとっては「覚悟の代金」みたいなものでした。安く済ませて「やっぱりダメか」って諦める言い訳を作りたくなかったんだと思います。

4. 現使用美容液使用実態と評価

インタビュアー：実際に使い始めてみて、ご自身の中で使い方のこだわりや、意識していることはありますか？

対象者：使い方は、店員さんに教わった通りにやっています。洗顔して化粧水をつけた後、2回ポンプを押して。それを手のひらに広げてから、顔全体に馴染ませるんですけど……。特に、目の周りとか、口角のあたりは念入りにやるようにしています。

インタビュアー：目の周りや口角を念入りに。それはどのような手の動かし方や、感覚でされているんでしょうか。

対象者：指の腹を使って、下から上へ持ち上げるような感じです。設計の仕事でずっと下を向いていることが多いので、どうしても顔の肉が重力に負けて垂れ下がってくるような気がして。だから、夜にこれをつける時は、「今日も一日お疲れ様」と自分に言い聞かせながら、元の位置に戻すようなイメージで、少し圧をかけて塗り込んでいます。

インタビュアー：ご自身に「お疲れ様」と言い聞かせながら。では、今のこの美容液に対する満足度を5段階（5が最高、1が最低）で評価するとしたら、いくつになりますか？

対象者：……「5」ですね。満点です。

インタビュアー：迷いなく「5」と。その理由を教えてくださいませんか。

対象者：一番は、翌朝の鏡を見た時の「安心感」です。以前は徹夜明けだと、肌がカサカサして土色のような顔をしていたんですが、これを使うようになってからは、睡眠不足でも肌に最低限の「踏ん張り」が効いている気がするんです。手で触れた時に、モチっというか、弾力がある。その感触を確かめた瞬間に、「よし、今日も大丈夫だ」と思える。この精神的な安定感は、今までの安い化粧水だけでは得られなかったものです。

インタビュアー：朝、触れた瞬間の「今日も大丈夫だ」という感覚。

対象者：はい。それと、さっきも少し触れましたけど、ボトルの質感も気に入っています。黒というか深いネイビーの、あのずっしりした感じ。洗面所に置いてあっても、妻の化粧品の中に埋もれず、自分の「道具」としてそこに鎮座している。その佇まいを見るだけで、少し背筋が伸びるというか、男としての矜持みたいなものを思い出させてくれるんです。

インタビュアー：井上さんにとって、この商品の「魅力」を一言で表すと、どんなことだと思われますか。

対象者：……「自分を取り戻すための儀式」ですかね。単に肌を綺麗にするための液体じゃなくて、すり減った自分にエネルギーを補給して、また戦える状態に戻してくれる。高い買い物でしたけど、それだけの価値……いや、それ以上の意味があるものだと思っています。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

インタビュアー：今後も、この美容液を使い続けたいと思われますか？今の時点での意向を5段階で教えてください。

対象者：……これも「5」ですね。使い続けたいと思っています。

インタビュアー：迷いなく「5」を選ばれた理由、そして使い続けることでご自身の肌や生活がどうなっていくことを期待されているのか、教えていただけますか。

対象者：理由というか……もう、これがない状態に戻るのが怖いんだと思います。さっきも言った「肌の踏ん張り」がなくなって、またあの絶望した時の顔に戻ってしまうんじゃないかという不安がある。これを使い続けることで、せめて今の自分を、自信を持って維持していきたい。「年齢を力に」という言葉じゃないですけど、疲れを溜め込まずに、50代に向けて良い枯れ方をしていければ、という期待があります。

インタビュアー：今の自分を、自信を持って維持したい。ちなみに、他に興味を持っている美容液やブランドなどはありますか？

対象者：正直、今は全くないです。浮気する余裕もないというか、ようやく見つけた「正解」を手放したくない気持ちの方が強いんですね。他のキラキラしたブランドを見ても、自分には似合わない気がしてしまいますし。

インタビュアー：ようやく見つけた「正解」。では、最後に。この「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」に対して、こうしてほしい、ここが変わればいいのに、といった要望があれば、どんな些細なことでもお聞かせください。

対象者：……要望、ですか。中身については文句ないんです。ただ、唯一あるとすれば、このボトルの「重さ」と「中身の見えなさ」ですね。

インタビュアー：中身の見えなさ。

対象者：ええ。このずっしりしたボトルの質感は大好きなんですけど、その分、あとどれくらい残っているのが全くわからない。急になくなるのが怖いです。設計の仕事もそうなんですけど、段取りが狂うのが一番ストレスなので。リフィルがあるのは知っていますが、例えばボトルの横に一本、細く残量が見えるスリットがあるとか……いや、でもそうするとこのストイックなデザインが崩れるんですかね。難しいところですが、そこだけが少し不安です。

インタビュアー：要望と聞いて、真っ先に「重さ」というキーワードが出てきたのは、井上さんの中でどんな思考のプロセスがあったのでしょうか。

対象者：……そうですね、たぶん無意識に「この中身を失いたくない」という不安と結びついているんだと思います。設計の現場でもそうなんですけど、良い道具って、手に持った時に適度な重みがあって、自分の手に馴染む「確かな存在感」があるんですよ。このボトルも、僕にとっては「1万5千円の投資」という重みと、日々の疲れをリセットしてくれる「頼もしさ」が、その重量感に象徴されている気がしています。

インタビュアー：投資の重みと、頼もしさの象徴。

対象者：はい。だからこそ、その重さが変わらないままだと、ある日突然「プシュッ」と空気が混じって中身が終わる瞬間が来るのが、なんだか怖くて。仕事でも、資材の在庫が急に切れるような事態は一番避けたい。この美容液は、今や僕にとって「明日も現場で戦うための燃料」みたいなものなので。中身が見えないからこそ、その「重さ」だけを頼りに残量を測ろうとしてしまう。それでつい、要望として「重いからこそ、終わりが分かればいいのに」という言葉が出たんだと思います。